

☆ \_\_\_\_\_・\_\_\_\_\_をあらわす \_\_\_\_\_ の中では、 \_\_\_\_\_ のことも \_\_\_\_\_ であらわす。  
① ②

① { 『時』をあらわす接続詞 … \_\_\_\_\_ ~ 『~するとき』  
 \_\_\_\_\_ ~ 『~したあとで』  
 \_\_\_\_\_ ~ 『~する前に』  
 \_\_\_\_\_, \_\_\_\_\_ ~ 『~まで(ずっと)』  
4文字 5文字  
 \_\_\_\_\_ ~ 『~する間に』 など

『条件』をあらわす接続詞 … \_\_\_\_\_ ~ 『もし~ならば』

② { 副詞 … \_\_\_\_\_ を修飾する働き  
 節 … \_\_\_\_\_ + \_\_\_\_\_ があるひとかたまりの部分

《時をあらわす副詞節》の例↓ (… 彼がここに来るのは \_\_\_\_\_ のことだが、 \_\_\_\_\_ であらわしている)

『彼がここに来たとき、私たちはサッカーをします。』

→ When he  here, we'll play soccer.

《条件をあらわす副詞節》の例↓ (… ひまなのかどうかは \_\_\_\_\_ のことだが、 \_\_\_\_\_ であらわしている)

『もしあなたが明日ひまなら、私に電話してください。』

→ If  free tomorrow, please call me.

※ なぜ、上記のように、未来のことを \_\_\_\_\_ であらわすのか、その理由ははっきりしませんが、  
if ~ 『もし~ならば』、when ~ 『~するとき』などの語が、もともと \_\_\_\_\_ の内容を含んでいるので、未来表現を二度 \_\_\_\_\_ 必要はないから、と考えるとわかりやすいでしょう。